

いま注目される投資信託の 説明のポイントを押さえよう

商品の特徴とリスクを踏まえた効果的なトーク例

スキラージャパン株式会社
CFP®認定者

伊藤 亮太



いとう・りょうた／慶應義塾大学大学院商学研究科(専門は社会保険・年金)修了後、証券会社を経て2007年11月、スキラージャパン株式会社を設立。個人の資産設計を中心としたマネー・ライフプランニングの提案・サポート等を行っている。

ハイ・イールド債券以外にも、海外REITやアジア株式などを

投資対象とする投資信託が注目を集めている。本稿では、いま注目される、

3つの投資信託について、その商品の特徴やリスク、効果的な提案方法を解説する。

PICKUP 1

ワールド・リート・オープン (国際投信投資顧問)

投資比率が55%を占める
米国の影響を受けやすい

2010年4月から2011年3月までの1年間に於いて、資金流入

額が最大であった投資信託は何か？
その答えは海外REIT投信である。
米国のREIT価格が上昇した結果、
足元のファンドの配当金利回りが20%
近くになっている点が評価されて

いるのが主な理由と考えられる。また、
為替が円高傾向にあるため、現在
投資すれば為替差益も享受できる
可能性がある点も投資の検討材料と
なっているのかもしれない。
今回はそんな海外REIT投信の
中から、国際投信の「ワールド・リ
ート・オープン」を取り上げてみる。
当ファンドは、世界各国の上場不
動産投資信託に分散投資を行う。為

替ヘッジは原則行わない。ポートフ
ォリオの構築は、国や地域、セクタ
ー配分から決定を行うトップダウン
アプローチと、個別銘柄から選定を
行うボトムアップアプローチの2つ
の運用手法を融合させ、相対的に割
安で好配当が期待される銘柄に投資
を行い、安定した配当利回りの確保
と値上がり益の獲得を目指している。
2011年7月22日国際投信作成

のウィークリーレポートを見てみる
と、国・地域別の投資比率では、ア
メリカが55.0%と圧倒的な比率を
誇っている。次に続くのがオースト
リア14.4%、フランス6.0%
等。REITの市場規模からすれば、
米国REITの比重が高くなる側面
は否めないものの、米国REIT市
場の影響を大きく受けやすい点には
注意が必要といえる。折り返しも米
国ではREIT指数がリーマン・ショ
ック前まで回復してきており、配当
利回り10年物米国債とのスプレッ
ドがなくなってきた

売りの29.7%がやや割合的に高いも
の、複合19.6%、オフィス13.
2%、ヘルスケア12.6%、住宅
11.1%等とうまく分散されている
ように感じる。国・地域、業種とも
に分散投資による効果を期待したい。
分配金が維持できるかは
運用益にかかってくる

ている。そのため
投資妙味が薄れて
いるといえるため
米国のREIT市
場動向には要注意
といえる。

次に、基準価額変化の要因分析を
見てみよう(図表1参照)。国際投
信の運用経過レポートによると、過
去1年間(2010年6月末)20

のウイークリーレポートを見てみる
と、国・地域別の投資比率では、ア
メリカが55.0%と圧倒的な比率を
誇っている。次に続くのがオースト
リア14.4%、フランス6.0%
等。REITの市場規模からすれば、
米国REITの比重が高くなる側面
は否めないものの、米国REIT市
場の影響を大きく受けやすい点には
注意が必要といえる。折り返しも米
国ではREIT指数がリーマン・ショ
ック前まで回復してきており、配当
利回り10年物米国債とのスプレッ
ドがなくなってきた

次に、基準価額変化の要因分析を
見てみよう(図表1参照)。国際投
信の運用経過レポートによると、過
去1年間(2010年6月末)20

ワンランク上を目指す営業担当者必読!
投資信託の提案力に磨きをかけよう!

のウイークリーレポートを見てみる
と、国・地域別の投資比率では、ア
メリカが55.0%と圧倒的な比率を
誇っている。次に続くのがオースト
リア14.4%、フランス6.0%
等。REITの市場規模からすれば、
米国REITの比重が高くなる側面
は否めないものの、米国REIT市
場の影響を大きく受けやすい点には
注意が必要といえる。折り返しも米
国ではREIT指数がリーマン・ショ
ック前まで回復してきており、配当
利回り10年物米国債とのスプレッ
ドがなくなってきた

図表1 課税配分金込み基準価額変化の要因分析と市場の変化

		リート要因 (円)		為替要因 (円)	小計
		(価格要因)	(配当要因)		
北米	アメリカ	+592	+106	▲240	+458
	カナダ	+53	+8	▲10	+61
オーストラリア		▲35	+25	+103	+93
ユーロ		+124	+24	+44	+192
欧州	(オランダ)	(+30)	(+8)	-	-
	(フランス)	(+89)	(+14)	-	-
	(ベルギー)	(+1)	(+1)	-	-
	(ドイツ)	(+3)	(+1)	-	-
イギリス		+98	+13	▲6	+104
シンガポール		+34	+20	+12	+66
アジア	香港	+49	+8	▲21	+37
	日本	+2	+1	-	+3
小計		+917	+205	▲108	+1,014
		18.6%	4.2%	-2.2%	20.6%
		+1,122			▲83
信託報酬等					+931
合計					

出所：国際投信過去1年間の運用経過と今後の見通し(2011年7月作成)

PICKUP 2

アジア・オセアニア好配当成長株オープン (岡三アセットマネジメント)

投資対象は銀行
投資地域は豪州がメイン

欧米の経済が不透明な中、アジア

今のところ、米国REITが好調
なため問題はないものの、REIT
の市場動向によっては分配金の減額
もありえるため注意したい。また、
金利上昇や円高は基準価額にマイナ
スの影響を与えるため、その点も理
解されたうえで投資に臨まれたい。

魅力を伝えていただきたい。
「世界の不動産に投資するREIT
投信は、安定的な配当収入を一つの
投資基準としています。米国ではあ
る程度指数が上昇している点には注
意が必要ですが、配当収入を得られ
る点、また他国では上昇余地がある
点を考慮しますと、値上がり益も享
受できる側面があるといえます。そ
の他、円高である今、為替差益を享
受できる可能性もあります」
各国のREIT市場動向に気を配
りながら、投資家の方にはリスクも
しっかり説明したうえでREITの

に目を向けられる方が多くなってき
ている。アジア全体で見た場合、人
口増加、消費意欲旺盛、経済成長率
も底堅く推移しており、今後有望

ワンランク上を目指す営業担当者必読!
投資信託の提案力に磨きをかけよう!

とで、日本経済の成長を享受することが可能といえる。仕組みとしては主にマザーファンドに投資するファミリーファンド方式で運用を行う(図表3参照)。そして、マザーファンドにおいて、「パラー日本株式モデル」という分析・管理ツールを活用し、原則として200銘柄以上で運用しながら日経平均株価と高い連動性の実現に努めている。また、基準価額と日経平均株価の動きの乖離は、主として株式の配当金、信託報酬の費用負担(年率0.546%以内)、組入銘柄の選定に伴う影響などにより生ずる。

日経225に連動する 投資成果を目指す

ここでは「インデックスファンド225(日興アセットマネジメント)」を取り上げる。ご承知のように当ファンドは、日経平均株価(日経225・東証)の動きに連動する投資成果を目指すものである。

当ファンドを中長期に保有すること

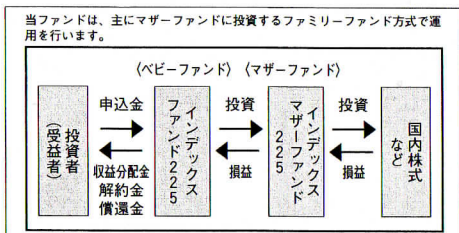
簡単に言ってしまうと、日経225の動きに連動する成果を目指すファンドであることには変わりなく、日本全体の株価をこのファンドで購入することが可能というものである。それでは、なぜこのファンドを取り上げたかを説明する。日本株の投資信託を取り巻く環境は厳しく、2010年4月からの1年間の日経平均株価の騰落率はマイナス10.9%、2008年4月からの3年間の騰落率はマイナス29.0%となっている。日本株投資の運用成績がふるわない、外債の金利に魅力を感じる方が多い等の理由から、どうしても外債や海外株式が目が行きがちといえる。東日本大震災の影響、円高進行が日本株にとってマイナスとなっている点は否定できないものの、日本株式はまったく魅力がないものとなってしまうというかと、私はそんなことはないと考え。

回復基調・円高のいまが 投資に適したタイミング

それでは、なぜこのファンドを取

り上げたかを説明する。日本株の投資信託を取り巻く環境は厳しく、2010年4月からの1年間の日経平均株価の騰落率はマイナス10.9%、2008年4月からの3年間の騰落率はマイナス29.0%となっている。日本株投資の運用成績がふるわない、外債の金利に魅力を感じる方が多い等の理由から、どうしても外債や海外株式が目が行きがちといえる。東日本大震災の影響、円高進行が日本株にとってマイナスとなっている点は否定できないものの、日本株式はまったく魅力がないものとなってしまうというかと、私はそんなことはないと考え。

図表3 ファンドの仕組み



出所:日興アセットマネジメント「インデックスファンド225」交付目録見書より

PICKUP 3 インデックスファンド225 (日興アセットマネジメント)

ニュージーランド、香港、台湾、韓国、マレーシア、シンガポール、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、中国が採用されている(なお、あくまで採用国であり、実際に投資されるには限らない)。

毎月10日(休業日の場合翌営業日)に決算を行い、3月・9月以外は配当等収益から、3月・9月は配当等収益等+売買益等から分配金が支払

われる。直近1年間においては、1万口当たり毎月75円、年間900円が分配金として支払われている。2011年7月11日現在の月次運用レポートにある基準価額5641円で考えると、単純利回りは約16%となる。なお、2011年6月30日現在におけるPCAアジア・オセアニア好配当株式ファンドの平均配当利回りは5.1%であることから、分配金は運用収益による影響が強く出ている点には注意が必要といえる(運用によっては分配金が今後目減りする可能性あり)。

マザーファンドの国・地域別構成比を見ると、オーストラリア(32.0%)、香港(20.5%)、台湾(16.9%)への投資割合が高く、3地域で約7割を占めている。また、株式組入上位銘柄をみると、銀行や電気通信サービス、素材、エネルギーといった業種の比重が高く、特に銀行の比率は全体の約22%を占めている(図表2参照)。

つまり、メインの投資対象は銀行、メインの地域はオーストラリアということになる。オーストラリアドルの為替動向や欧米の金融動向がアジア・オセアニア地域の金融株にも影響

響きを与える可能性があるため、その点は投資の検討の際に十分注意する必要があるといえる。BRICs以外の株式へ投資対象を広げたい方に、次運用時におけるコスト面を見てみよう。信託報酬等は、年率1.6905%と海外株式に投資をするファンドと海外株式の中でBRICs以外に投資対象をを広げたい方などにおススメをするにはよい商品といえるであろう。

図表2 株式組入上位10位銘柄(2011年6月30日現在)

銘柄	国・地域名	業種	比率(%)	利回り(%)
1 テルストラ	オーストラリア	電気通信サービス	3.4	9.7
2 ナショナル・オーストラリア銀行	オーストラリア	銀行	3.4	6.3
3 中国工商銀行	香港	銀行	2.8	3.4
4 中国銀行	香港	銀行	2.7	4.2
5 クアンタ・コンピューター	台湾	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	2.6	5.4
6 中国海洋石油	香港	エネルギー	2.5	2.3
7 ANZ銀行グループ	オーストラリア	銀行	2.5	6.3
8 オリカ	オーストラリア	素材	2.5	3.4
9 オリジン・エナジー	オーストラリア	エネルギー	2.4	3.1
10 クラウン	オーストラリア	消費者サービス	2.4	4.1

出所: 岡三アセットマネジメント「アジア・オセアニア好配当成長株オープン」2011年7月11日現在月次運用レポートより

貨の変動によつては為替差損が生じること、欧米の金融動向等によつては株価が軟調となる展開が予想されることです。そのため、積立投資による時間分散を図ることも検討されるとういでしょう。

このように説明すれば、分配金の高さだけに注目した売り方をしなくてもよいはずである。投資家の方も納得されるであろう。